

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4290500257		
法人名	合同会社 アウルの森		
事業所名	グループホーム ひだまりの家		
所在地	長崎県大村市杭出津2丁目1-7		
自己評価作成日	令和4年12月19日	外部評価結果確定日	令和5年2月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・「ゆったり、楽しく、自由に、ありのままに」の理念のもと、コロナ禍においても感染対策を十分におこない、入居者様の体調やその日の天候に合わせて外出や外食へ出かけるようにしています。毎月29日は肉の日という事で焼肉パーティー、日曜日にはカラオケやお菓子作り等を楽しんで頂き、その様子をショートビデオに納めご家族へ送信しています。
 ・ハロウィンには2施設の子供達と触れ合い、希望があれば朝から市場へ買い物に行ったり、夜間の外出もおこなっています。
 ・毎晩の晩酌も3名ですが楽しんで頂いて、調子のよい時はお代わりの声が聞かれています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JgyvosvoCd=4290500257-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター		
所在地	長崎市弁天町14-12		
訪問調査日	令和5年1月21日		

事業所では、外出支援を積極的に行っている。入居者が作った弁当を持って公園に出かけたり、花見などの目的でドライブしたり、日常でも散歩、外食(食事・スイーツ)、買い物に出かけている。入居者は外出することを楽しみにしており、楽しみや目的を持つことで活気ある生活が送れている。天気や入居者の体調が良いことも大事だが、職員間の連携と協力体制が整っているからこそできる支援である。かかりつけ医は、入居以前からの継続受診を勧めている。その理由として、持病や好みのもや趣味などが受診中の会話で分かり支援に繋がりがやすいからである。また長い信頼関係により、ご家族に対し最期まで馴染みの場で自分らしく生きることの大切さを説いてくれる存在でもある。職員は、多くの情報を収集共有し、残存機能を引き出した入居者本位の支援に努めており、入居者や様々な立場の人達の間で協調関係が築かれている事業所であることを評価したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	<p>○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>事業所の理念である「ゆったり、楽しく、自由に、ありのままに」を日々心掛け、起床から就寝までを一人ひとりにあった生活パターンを基本として支援している。</p>	<p>代表交代の度に理念の変更について話し合いを持ったが、入居者がわかりやすく安心して暮らせると思う「ゆったり 楽しく 自由にありのままに」の理念は、設立当初から変わってはいない。リビングには入居者がちぎり紙で作った理念が掲示され、全職員に理念は浸透している。入居者が体調に合わせて食事をしたり、晩酌をしたり、買い物に出かけるなど、今までの生活の延長のような一人ひとりに合わせた生活ができるよう、事業所全体で取り組んでいる。</p>	
2	(2)	<p>○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>町内会へ加入し、資源物回収・夜警への参加、近隣の薬局や理容室・美容室を利用したり、保育園・放課後デイサービスの子供達との交流も行っている。</p>	<p>職員やお元気な入居者は、隔月の草刈りや年末の夜警に参加したり、資源物は町内会への協力として持ち込んでいる。また、入居者の希望で鬼火だきなどの行事にも参加している。地域行事に参加しやすく、災害時の協力体制も整っており地域との繋がりはできている。しかし、コロナ禍により実習生、ボランティアの受入れはできていない。</p>	<p>地域に事業所の取り組み等を理解してもらうために施設便りを回覧し、消火器使用訓練の参加の誘いや大村市認知サポート事業所であることを周知し、より地域に密着した事業所になるように期待したい。</p>
3		<p>○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>大村市が行っている《認知症ほっとライン事業所》に参画し、いつでも相談に応じられる体制を作っている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度開催しており、長寿介護課・地域包括支援センター・知見者・町内会長・民生委員・ご家族代表及び近隣の理容院からご参加(紙面にて)頂き、GHでの活動等の報告を行い、ご意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議は書面会議となっている。活動内容等の職員記録を報告書にまとめ、メンバーへ送付し、FAX、LINE、直筆の手紙で意見をもらい、管理者等が返答したものが議事録となる。地域、行政、ご家族、入居者による多数のメンバーからは、率直な意見や地域情報などが寄せられ運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	実地指導を含め、連絡を密に取りあらゆる面での相談にも対応していただける関係を築くように取り組んでいる。	長寿福祉課や保護課へは、報告や各種申請手続き等で訪庁する。担当職員は、運営推進会議の報告により事業所の活動や現状について理解しており、課題について相談しやすく、助言や情報提供がある。地域包括支援センター等からは、研修会やセミナーの案内が届き、職員が参加しサービスの質の向上に繋げている。大村ほっとライン事業所に参画し、相談や行政と市民の橋渡し役を担っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を中心に、日頃から支援の在り方を職員間で話し合っており、内・外部研修で繰り返し学ぶと共に、グレーゾーンやスピーチロックを含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	転落防止のため、階段上部に柵を設置し、鍵(あおり止め)を取り付けている。簡単に外せる金具ではあるが、入居者が外すことが出来ないと判断した時点で身体拘束となるとの見解である。転落防止の施錠については、見守りが少ない時間帯に限られ、ご家族の同意と運営推進会議への報告もある。身体拘束適正化委員会は、管理者を含む職員3~4名で構成され、事業所内で2~3ヶ月に一度身体拘束についての勉強会を実施している。また外部研修へも参加し、伝達講習を行い事業所全体で身体拘束の適正化への意識の向上に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月、ミーティング時に不適切ケア・虐待発見チェックリストを実施し全職員が理解し虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用されている入居者の方がいらっしゃり、現在、保佐人の方が関わられているが、権利擁護に関する制度を理解している職員が少ない為、学ぶ機会を持ちたいと思う。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する説明は管理者が内容を読み、細かい解説を入れながら、入居希望者やご家族の疑問・質問に対応して理解と納得をして頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2か月に1度の運営推進会議にて意見交換を頂いた会議録は翌月の請求書と一緒に同封しご家族様に配布している。 また、ご家族様の面会時には意見や要望等の聴き取りも行い運営に反映させている。	運営推進会議においてご家族からの意見としてクリスマス会に家族等の参加は出来ないかとの意見があり、職員から招待の連絡を入れたが参加者は少なかった。職員は、会話によりご家族の実情を把握し、要望や意見を聞き出し対応している。施設便りやLINEグループの動画配信により事業所の活動が目に見えてわかるようになっており、病気回復時、看取り時の現状、年賀のあいさつ等は個別に配信し入居者を身近に感じることができている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議にて職員からの発信の機会を設け、意見や提案を出している。代表者へは管理者より伝達してもらい対応している。	全体、ユニット別のミーティングが月一で行われ、事故報告、意見や要望が出され検討される。参加しない職員からも事前に意見を聴取し、議事録により報告をしている。勤務体制は、職員の提案により入居者の状態に合わせて変更しており、交代もしやすい環境にある。新人職員教育、研修、小テストを行い職員のスキルを培っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	今年度より給与形態が一部変更され、職員の安心感ややりがいに繋がっていると思う。希望休や有休も取りやすい環境にある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修では各職員にケアの共通認識や向上心を持ってもらい、外部研修では職員の力量に応じてWEBや会場での参加をする機会をもらっている。働きながらの資格取得の為の研修会にも参加させてもらい、研修に対する勤務調整もしてもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	WEBでの外部研修(ケアセミナー等)を中心に会場への参加の研修で交流をする機会を持たせて頂いている。コロナ禍の為、各駅停車や相互訪問などの活動が出来ていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者様本人から聴きとれる事は、時間をかけて聴き取り、そうでない方にはご家族からの要望や本人様の以前の生活等をお伺いし安心を確保するための関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が困っている事、不安な事、ご要望等を聞き、一緒に考えながら不安が少しでも解消するよう、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居される前にご本人、ご家族、管理者、ケアマネが話し合いを行い、必要なサービスを説明の上、最適と思われるサービスの検討を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様の出来る事を大切にし、過度な支援になっていないか等を話し合い職員と共に生活する関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	現在はコロナ感染症対策の為、居室内にご案内することはできないが、玄関先での面会を中心に動画にて入居者様の様子を送信したり、ビデオ通話の支援を行いご家族との関係を大切にしながら、共に支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様が希望されている利用・美容室に行かれたり、出張で髭剃りに来て頂いたりしている。回数を重ね訪問している飲食店にも行き、食事を楽しまれている。自宅へ行きたいという希望がある時は同行し、必要な物を取りに行かれたりしている。	ご家族との面会は、オンライン、玄関、状況に応じて部屋でできており、面会ができない入居者には職員との関わりを大事にしている。自宅外出や行きつけの美容室等に出かけ、入居以前からの関係を大切にし、入居後は、外食先で馴染み客となり、事業所内でカラオケを楽しみ、男子会女子会と称して会食をして新しく人と場の関係を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様の身体状況や精神状況等を考え、席替えをしたり、職員が介入が出来るよう努めている。 1つの作業を複数人で協力したり、食事時に他入居者の方を気にかけてたりと心配りされている場面もみられる。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された入居者様のご家族の方が立ち寄りお話をされる際は話を聞き関りを大切にしている。また、グループラインからは脱会されても、ひだまりの家との個別なラインは繋がるので、いつでも相談等が出来る事をお伝えしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の会話の中で得た情報を職員間で共有し、入居者の方の希望に出来る限り答えるようにしている。 意思の疎通が困難な方は表情等から汲みとるように努めている。	長い時間をかけて、入居者、家族とともにACP(アドバンス・ケア・プランニング:人生の最終段階の医療・ケアについて、本人が家族等や医療・ケアチームと事前に繰り返し話し合うプロセス)に取り組むようにしている。日頃から、入居者の言動を気につけ、癖や習慣を把握し、日常の会話からも気持ちをくみ取っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者の方やご家族の方からこれまでの生活歴等の情報収集を行い、またアルバム等を持参された時は一緒に拝見し、これまでの生活の把握をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の体調を把握し、体調に合わせて出来る事、出来ない事を職員間で共有し、一日の過ごし方を支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニット毎に月1回ケアマネと職員が集まり、ケアカンファレンスを実施している。日々の生活記録から入居者の方の言葉や、行動を受け止め、より良く生活して頂けるよう意見交換をし、その時に見合った介護計画を作成している。	入居前には、前施設や自宅を訪問し、関係者から入居者についての話を聞いたり、本人と話をしたりすることで、アセスメントを行っている。入居時の契約のときには、入居者がどのような暮らしをしたいか、どうすれば安心して過ごすことができるかを把握するために、入居者本人や家族とじっくり話をするようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人ファイルに本人の言動を詳しく記録し、全職員が入居者の事を把握し、詳細はユニット別で無料通信アプリで送り、職員間で共有し、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	緊急時やイベント時など、その時々に合わせて、職員を増員したり、都度話し合いを行い、ニーズに合った支援を行うようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の保育園や学童の子供達との交流や、近隣の理容室、スーパー、飲食店を利用し、個別の要望に出来る限り応えられるよう支援に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	一人一人のかかりつけ医があり、急変時や緊急時は主治医の往診や指示で協力を頂き、ご家族の方にもその都度連絡をし、信頼関係を築いている。	入居者のこれまでの生活を熟知している、入居前のかかりつけ医とのつながりを大切にしており、付き添う職員も主治医と良好な関係を築いている。かかりつけ医が必要に応じて往診にも来ている。また、受診の際は、家族にはラインアプリや電話での連絡を行っており、職員同士も付き添いの職員がラインアプリで連絡をして、素早く状況を共有できるようになっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置しており、24時間いつでも容体変化を伝える事ができ、適切な対応や受診・往診に繋がるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は施設での情報を提供し、ご家族・病院関係者とも密に連絡をとりながら、退院時もスムーズな対応が出来るよう支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看護職員を中心に主治医との連絡を取り、終末期についてはご家族にも定期的に確認・同意書を頂き、事業所で出来る最大限の事を出来るよう体制を整え、支援に取り組んでいる。	終末期の入居者には後悔のないよう生活してもらいたいと考え、本人の希望があった場合は、できる限りかなえられるよう支援している。意思確認については、主治医と慎重に話しをしてもらい、事業所でも入居者の意思を尊重し、本人、家族が納得のいく最後を迎えられるよう慎重かつ頻繁に話している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護職員の指導のもと、急変や事故発生時に備えて内部研修を随時実施し、全職員が実践力を身につけるよう努力している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	1ヶ月に1回防災訓練を行い、消防の方の指導も受けている。 今夏は台風の為、実際に避難をし、体験したことから反省点良かった点等を協議し、有事の際に活かせるように対策を講じている。	月に一度、うち半分は入居者参加の避難訓練を実施しており、非常時のスタッフの動きや連絡体制の充実を図っている。大型台風など事前に避難が必要な可能性があると思われるときは、予め荷物の移動など避難の準備をするようにしている。備蓄については、地震等により建物が倒壊したときを考えて、保管場所を建物の内外2か所に分けている。	夏に台風で避難した場所は、曜日によっては使えない状況が考えられる。いざというときに、すぐに避難することができるよう、入居者、職員の負担が少ない安全な避難場所の確保が必要である。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に一人一人の人格を尊重するよう、接遇委員会からの内部研修も行いながら、日々の関わりの中で職員同士で対応について気づきを共有し、言葉かけを行っている。	接遇委員会が中心となり、接遇に関するチェックシートを毎月記入することで振り返りを行い、次に向けて接遇の向上を図っている。また、気付いたことがあった場合は、すぐに他の職員や管理者が指摘するようにしている。接遇をさらに向上させてもらいたい職員には接遇委員会に入ってもらい、内部研修を実施する側に立ってもらうことで、職員の接遇に対する意識を高めるよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	可能な限り自分の意思を表現出来る方の意見は傾聴し、意思の疎通が難しい方は選択・決定をして頂けるよう環境作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の生活リズムに合わせて買い物や散歩、ドライブ等の要望があれば対応するように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出や行事の時はその時に合った服装を支援し、衣類の汚れ・乱れには注意を払い、ヘアカットも支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたいものを聞いて一緒に買い物へ出掛けて購入したり、外食へ出掛けて好きな料理を食べられたり、晩酌で熱燗を飲まれる方、ロックで飲まれる方、それぞれに好きなお酒も楽しんで頂いている。 食後の片付けも無理なく入居者の意思でして頂いている。	入居者の希望を聞きながら、給食委員会がバランスを考えて献立を検討している。土日はユニット毎に好きな食事メニューとなっている。また、食事内容を固定させることなく柔軟に対応し、食べたいものを提供している。健康の心配がある方についても、主治医と相談しながら、できる限り入居者の希望に添えるよう努めている。夕食は外注しているが、入居者が飽きることはないよう、2つの業者を1か月ごとに交代して利用するなど工夫している。外食も事前に個室を予約することで積極的に行っており、入居者の楽しみとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の状態・習慣に応じてミキサー食や軟飯だったり、栄養バランス、水分量を毎食チェックし、摂取量が少ない時は栄養補助食品を提供するように努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	週1回の歯科往診にて指導を仰ぎながら、毎食後に個々に合った口腔ケアに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	身体介護の重度化によりオムツや尿とりパットの使用が増えつつあるが、椅子や車椅子から立ち上がろうとされる動きや言動などから排泄の前兆と捉え、トイレ誘導を行いトイレでの排泄や、排泄の自立に向けた支援を行っている。	トイレでの排泄をできる限り支援しており、立位が困難な方以外はトイレへ誘導するようにしている。トイレへの声掛けは、食事の前や入居者それぞれの動きを見ながら適宜行っており、食後に他の入居者が部屋に戻った後周りに人がいない状況で声掛けするなど配慮している。排泄に失敗された方に対しても、周りに気付かれずに対応できるよう、トイレ周辺に必要なものを保管するなど動線を工夫している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックを行いながら運動や水分摂取を促したり、乳製品を摂取してもらう等の支援を行っている。 必要時は主治医へ相談し、個々に応じた予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回以上の入浴は曜日や時間に捉われることなく入居者の方の体調や、その日の状況を見ながら行っている。 冬場は保湿クリームを塗布し、皮膚の乾燥予防に努めている。	入浴は週に2回以上、希望すれば何回でも、またあらかじめ予定していなくても可能である。ウイッグの着用など配慮が必要な入居者に対しては、対応する職員を固定し、その職員がいる日に入浴する等して入居者に寄り添った支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼間はフロアに設置しているソファや居室にて休息して頂いたり、居室も入居者の方の生活習慣に合わせた寝具等で対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の疾患や処方薬を把握し、いつでも内服薬の確認が出来るよう個人ファイルに用紙を挿入している。 内服薬の用量や副作用等は常に内部研修を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活習慣を大切に、晩酌の継続や食器拭き、洗濯物干し(洗濯物たみ)等家事の出来る事を役割として行って頂いたり、外気浴や居室にてお菓子やジュース、好きなTV番組を見て頂いている。懐メロや動物、赤ちゃん等の動画を一緒に見たりしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で外出の機会は減少してきているが、感染対策が万全なお店へ少人数で外出へ出掛けたり、近隣の理・美容室の利用、自宅が近い方は時々自宅へお連れしたりしている。	毎月のミーティングのなかで、翌月の外出予定を検討している。感染症に配慮しながら、入居者が望むところに外出しているので、行先はさまざまである。予定していた外出だけではなく、気候が良く、入居者の調子が良いときには、入居者と弁当を作り、公園で食べるなど、柔軟に動いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者の方の希望があればご自身で持って頂けるよう支援し、買い物などの時もご本人様に支払いをして頂いたりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はいつでも利用できるようにしており、本人持ちのスマートフォンからご家族様へ電話をされたり、掛かってきた電話もゆっくり話しが出来るよう環境作りに配慮している。 姉妹様から来た手紙もお渡しし、お礼の電話もされている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間では季節感を味わって頂けるよう毎月壁紙を飾ったり(その季節に応じた物)、温度や湿度にも配慮しながら、心地よい空間を提供出来るよう工夫している。	共用空間の飾りつけは、入居者に案を出してもらって決め、一緒に装飾を作成している。入居者はそれぞれお茶やコーヒーを共用空間に置いており、飲みたいときに自分で飲み物を入れてくつろぐことができるようになっていいる。夜は就寝準備をした後、共用空間や職員の詰所に入居者が自然と集まり、話をしながら安心して過ごせている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間には大きなソファやテーブルセットがあり、気の合う入居者同士で話をされたり出来るよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時よりご自宅にいらっしゃるような雰囲気作りを再現するために、使い慣れたタンスや写真、聴き馴れたCDやDVD等を用意して頂き、居心地良く過ごして頂けるよう工夫している。	基本的に火気の持ち込みは禁止しているが、それ以外は入居者の状態によるが、許可できないものはない。各居室は、それぞれ作りが異なるが、入居者のこれまでの生活を尊重しつつ、制作物を飾ったり、写真を飾ったりして自宅の延長として過ごせるようお手伝いしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の「出来る事」、「分かる事」を大切に し、トイレや自分の居室が分かるように目印をつ けたり、洗濯物干しが出来る方には段取りを行っ たり卓上ゴミ箱は手の届く所に置いてあり、出来 るだけ自立した生活出来るよう工夫している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4290500257		
法人名	合同会社アウルの森		
事業所名	グループホームひだまりの家②		
所在地	長崎県大村市杭出津2丁目1-7		
自己評価作成日	令和4年12月19日	外部評価結果確定日	令和5年2月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「ゆったり・楽しく・自由に・ありのままに」の理念を掲げ、入居者お一人お一人の生活に合わせた生活を目標にしています。
 コロナ禍となり、外出や地域やご家族との触れ合いを持った行事も激減しましたが、感染対策を充分に行いながら少しずつ取り組んでいます。
 ご家族へはひだまり新聞やテレビ電話を活用し、繋がりを継続しています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action_kouhyou_detail_022_kan=true&JiqvosyoCd=4290500257-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター		
所在地	長崎市弁天町14-12		
訪問調査日	令和5年1月21日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	共有スペースへ「ゆったり・楽しく・自由に・ありのままに」を掲示し、日々心掛けることが出来るよう、職員間でも声掛けをしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍となり、昨年同様に感染対策を行いながら、出来る範囲で地域参加を行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症ほっとライン事業に参画し、内部研修を行い、問い合わせは時は管理者へつなげるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍においては書面での会議とし、長寿介護課、地域包括支援センター、知ご家族にご意見を頂きながらサービスの向上へ活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	長寿介護課、地域包括支援センター、生活保護課、安心センターの職員とは日頃から連絡を取り合い、協力・ご指導を頂いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間は職員が1人対応となる為、階段からの転落事故を防止する意味でご本人様はもちろんご家族様への説明や同意書を作成した承の上で階段の施錠を行っている。また、2名ほど窓から身を乗り出しそうな方に関しては、上半身が出ない程度のストッパーをかけさせて頂いている。新規入居で、戸外へ1人で出ていく可能性があられる方へ馴染まれる迄の短期間だけ玄関への施錠を行った。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティング時に虐待防止委員会と接遇委員会を兼ねて、内部研修や個別指導を行いながら虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内に市の権利擁護事業制度や成年後見人制度を活用されている方がいるが、制度を理解出来ていない職員がいる為、今後の課題である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者・ケアマネが説明を行い、入退居時にお互いが納得のいくように話し合い、契約を交わしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2ヶ月に1度、運営推進会議へご家族様にも参加して頂き、意見や提案を伺い、運営に反映できるよう努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月職員会議時に全職員で話し合い、管理者より代表へ伝達する形で対応して頂いている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人一人の実情を把握し、勤務についての配慮がある。 職員の資格取得に向けて支援を行い、研修の機会を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修を通してケアの向上を図り、各職員のレベルに合った外部研修や実践者研修への参加の機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ケアセミナーやケアフォーラムなどオンラインによる研修、感染予防を徹底しながらの研修に参加している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	思ったことを話せる環境作りや表情を観察し、職員からの言葉掛けに対する反応や気持ちなどを汲み取り、入居者の方が安心して生活して頂けるよう信頼関係作りの構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	体調不良や何かあった時だけではなく、来設時には声を掛け、近況等を伝えられるようにしている。 その都度細やかな事でもご家族に連絡をし、話ができるよう務めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に管理者やケアマネにより、可能な限り情報を聞き取り、その方に必要な支援の検討を行っている。 場合によっては他事業所をお勧めし、利用に繋げる対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の方が有している能力を活用し、本人様が主体となる生活になるよう心掛けている。 生活において不安な場合には、言葉掛けを行いながら不安を取り除き、支え合いながら生活できるよう心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話の際は近況報告をしつつ、情報の共有をしながら支援している。 今の課題について一緒に考えたり、御家族にも入居者様の気持ちを伝え、出来る限り偏りのない支援に繋げる努力を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの理髪店を利用し、店主からコーヒーをもらって飲んだり、近隣の商店へ買い物へ通うなどして人との繋がりが保てるように支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	座席の配置や入居者様の性格などに配慮しながら、場合によっては職員が介入出来るようにしている。イベントやレクリエーション等でも入居者同士が関わり合いが持てるような工夫や、言葉かけをしながら支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	御家族と共に看取りを行い、退居された後も初七日と四十九日に訪問、お参りしご家族様に喜んでいただいた。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	外出支援等の際、個人とゆっくり話し合い、個人的意向の収集と得た情報を職員間で共有している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	実態把握票や入居者本人、ご家族様との関わりの中で情報収集をし、職員間での情報共有に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者管理表や日常生活記録用紙へ記入し、受診状況など他職員へも無料通信アプリを使用し、情報の共有を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン会議を月1回、ケアマネを中心に開催し、要望・変更などを検討し作成している。また、ご家族の面会時など必要があれば話し合いも行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活記録とホーム日誌や無料通信アプリ等を使用して情報の共有に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	安心センター等にも介入して頂き、マイナンバーカードや携帯電話の手続きなど柔軟な対策やサービスの多機能化に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の保育園や障害者施設の子供達とハロウィンイベントで交流を図ったりして、一人ひとりの力を発揮しながら楽しんで頂けるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	馴染みのあるかかりつけ医に受診することで安心感を持てるように支援している。 急変時も連絡がすぐ取れるように体制を整えている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を各ユニットに1名ずつの2名を配置し、異変等の相談を随時出来るようにしている。 それによって適切な受診や往診が受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	常に救急連絡シートや入院時情報提供書の最新版をファイルに準備し、医師からの検査結果、治療方針などの情報収集も行ないながら他の医療機関への情報交換に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様の意向確認書を入居時より作成し毎年確認を取りサイン頂いている。 かかりつけ医を含め、ご家族へ十分な説明を行いながら方針の共有をし、支援へ取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎月の勉強会を通して対応力を身につける努力をしている。 また、看護師による個別指導も別に継続して行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	火災・水害・地震を想定した入居者様の避難訓練を年6回と、職員のみで行う初動動作訓練を年6回は継続している。 台所のガスの元栓の確認、外回りのコンセント、可燃物が無いかの確認を毎日チェックシートを作成し、記入している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇委員会より3カ月毎の個人指導やミーティング内で接遇の5原則についての勉強会を行っている。 毎月のミーティング後の自己評価も継続している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望を言いやすい環境作りに心掛け、入居者の方が自己決定をしやすい言葉かけに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「ゆったり・楽しく・自由に・ありのままに」の運営理念を基盤に、お一人お一人の希望を把握し、その方のペースに合わせた支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望に応じて近隣の理髪店へ外出し、カット、ヘアカラー、パーマを楽しんでおられる。 また衣類はご自分で選び、購入し楽しまれている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	コロナ禍であり、職員との食事は変わらず出来ていないが、その方の好みにあった食事を提供している。食事の準備や後片付け等も職員と共に行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お一人お一人の水分や食事摂取量、摂取状況を十分に観察し、不足している場合は嗜好品や補助食品を提供し支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎週の歯科往診や必要に応じて歯科受診をしている。 毎食後の口腔ケアは入居者様個々に合った物を使用し清潔を保持している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	加齢や認知症の進行により、尿とりパットやリハビリパンツの使用が増加しているが、言葉かけやその方々に合った用品を検討・試行し、排泄の自立へ向けた支援をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄のチェックは必ず行い、運動や水分摂取の促し、咀嚼の言葉かけも行っている。 必要な場合は医師への相談も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週に2回以上の入浴を基本とし、入居者様のその日の状態を把握し、希望に沿った曜日・時間帯に入浴を楽しんで頂けるよう支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は自室やフロアで自由に過ごして頂き、夜間は宿直室のソファーでくつろいだりされる入居者の方もおられる。自室で好みの物を食べたり晩酌を出来るよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の疾患や処方薬を理解する為個人指導にも力を入れている。 また個人ファイルへ内服薬の説明書を保管し、内服薬をいつでも確認出来るよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今までお一人お一人が過ごしてこられた生活習慣を大切にし、感染対策を十分に行いながら外出や外食支援を行っている。 また嗜好品、楽しみ事を実現し、気分転換の支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	コロナ禍となり外出の回数は減少しているが、感染対策に十分注意しながら天気の良い日は職員と一緒に小弁当を作り、ドライブへ出掛けたり、近所の商店へ買い物へ出掛けられるよう支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理が可能な方、手元にお金がないと不安になる方にはご家族の方と話し合いをし、手持ちを持って頂いており、自ら支払いをして頂けるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っていらっしゃる方がおられ、自由に電話を掛けられている。要望があれば電話を掛けたり出来るよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内のあちこちに温室計を設置し、常に計測値を確認しながら室内の温度・湿度の管理や空気の入替え、感染対策として空気清浄機の使用等行っている。また、壁には季節感を感じてもらえるような飾り付けを工夫して行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロア内には畳コーナーがあり、フロアや畳どちらにもテーブルや椅子、ソファ等を置き、その時の気分で思い思いに過ごせる空間づくりを工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内はご自宅で使用されていた物を持って来て頂き、入居者様の意見を伺いながら一緒に設置するなどして、安心し居心地良く過ごせるような工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	立っての作業が難しい方は座ったままで出来ることを、立って出来る方は立って出来る作業を分担して行い、日々の生活の中に自立した時間を設ける工夫している。		